

「敦賀港セミナー」を開催！

航路開設へ向けて敦賀市長と中国・琿春^{コンシュン}市長が共同宣言

敦賀港と北東アジアを結ぶ日本海横断航路の実現の可能性を探る「敦賀港セミナー」が2月20日、敦賀市内にて開催され、河瀬敦賀市長と姜中国琿春^{ジャン}市長が共同宣言を行い、航路開設に向けてともに取り組むことを確認しました。

このセミナーは、北東アジアと日本の架け橋としての敦賀港のあり方を探り、早期の航路開設を図ろうと敦賀市が開催したもので、県内外の物流業者や行政関係者約200名が参加しました。

はじめに河瀬敦賀市長より「中国の琿春市と手を取り合って航路開設の実現に向けて頑張りたい」と開会の挨拶があり、続いて姜中国琿春市長より「1日も早く敦賀港との航路が開設されることを期待している」と挨拶がありました。

琿春市は、中国東北部に位置し、南は北朝鮮、東はロシア連邦と接しており、日本海までは15km程度であり、近隣の港としては、韓国束草港とフェリー航路が開設されているロシア極東のトロイツァー港（旧名ザルビノ港）などがあります。また、琿春市には多くの日系企業が進出しており、日本企業向け工業団地も整備されています。現在、琿春市に立地する企業は、日本との貨物輸送において、主に大連港を経由していますが、輸送コストや輸送時間の縮減を図るためトロイツァー港から日本海側港湾との航路の開設を模索しています。昨年、姜琿春市長が敦賀市を訪問し、航路開設に向けたワーキング設置などについて敦賀市長と懇談しています。

引き続きセミナーは、「敦賀港から見た北東アジア地域の動向と今後の展望について」と題し、（財）環日本海経済研究所三橋特別研究員による基調講演が行われ、「背後圏に阪神・中京を有する敦賀港と経済成長続けている中国東北部との航路開設へ向けての挑戦がはじまった。航路開設の実現には、何より初期段階から地域間の信頼関係を結ぶことが大切。航路開設は初期投資額が大きいので、自治体の積極的な参加が不可欠」と話しました。

また、中国に進出した企業の関係者や学識経験者らが参加した「発展する北東アジア地域と日本」をテーマにパネルディスカッションでは、開設を目指す航路への期待と、実現するための提案が話されました。

最後に、航路開設に向けて作業部会の設置や協力体制の構築を盛り込んだ共同宣言を行いました。

港湾行政に携わる当事務所としても、航路開設に向け関係機関とともに航路開設に向けた取り組みを支援していきます。



共同宣言に署名した河瀬敦賀市長（左）
と姜中国琿春市長（右）



関係者200名が参加した会場



基調講演を行う（財）環日本海経済研究所
三橋特別研究員



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションでコーディネーターを務める流通経済大学矢野教授



「他港にはない独自性をアピールすることが重要」と話すパネラーの国土交通省
佐々木港湾計画課長



「環日本海経済の発展は、北陸の港湾の連携に期待する」と話すパネラーの北陸経済連合会朝倉調査部長



「滋賀県も CO2 削減のためにも敦賀港と連携した取り組みを継続して行きたい」と話すパネラーの（社）滋賀県経済産業協会藤井専務理事



「物流を行う上で、中京・阪神を背後に有する敦賀港の活用は重要」と話す
(株)小島衣料有限公司及川執行董事



「ロシアでの日本製品の信頼は高く輸出の需要が見込める」とロシアなど海外で倉庫業・運輸業を営む(株)センコン物流社長室西條課長